

2024年10月27日

聖書講習会

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒285番（SK 姉）

『心の緒琴に』

聖書⇒詩篇 23 編（MM 姉）

『【賛歌。ダビデの詩。】主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

主はわたしを青草の原に休ませ／

憩いの水のほとりに伴い

魂を生き返らせてくださる。

主は御名にふさわしく／

わたしを正しい道に導かれる。

死の陰の谷を行くときも／

わたしは災いを恐れない。

あなたがわたしと共にいてくださる。

あなたの鞭、あなたの杖／

それがわたしを力づける。

わたしを苦しめる者を前にしても／

あなたはわたしに食卓を整えてくださる。

わたしの頭に香油を注ぎ／

わたしの杯を溢れさせてくださる。

命のある限り／

恵みと慈しみはいつもわたしを追う。

主の家にわたしは帰り／

生涯、そこにとどまるであろう。』

礼拝讃美歌⇒331番（旧 253 番）

『主イエスはわれの』

聖書⇒ヨハネの黙示録 4章 8c~11節 (SK 兄)

『「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、/  
全能者である神、主、/  
かつておられ、今おられ、やがて来られる方。」

玉座に座っておられ、世々限りなく生きておられる方に、これらの生き物が、栄光と誉れをたたえて感謝をささげると、二十四人の長老は、玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。

「主よ、わたしたちの神よ、/  
あなたこそ、/  
栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。

あなたは万物を造られ、/  
御心によって万物は存在し、/  
また創造されたからです。』

あなたこそ、/  
栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。  
あなたは万物を造られ、/  
御心によって万物は存在し、/  
また創造されたからです。』

<祈>

礼拝讃美歌⇒98番 (旧 187番) (KH 姉)

『馬槽の中に』

聖書⇒詩編 33章 1~3節 (ES 姉)

『主に従う人よ、主によって喜び歌え。  
主を賛美することは正しい人にふさわしい。

琴を奏でて主に感謝をささげ/  
十弦の琴を奏でてほめ歌をうたえ。

新しい歌を主に向かってうたい/  
美しい調べと共に喜びの叫びをあげよ。』

聖書⇒コロサイの信徒への手紙 3章 16節

『キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、論し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 1章 5~6、8節

『わたしたちを愛し、御自分の血によって罪から解放してくださった方に、わたしたちを王とし、御自身の父である神に仕える祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくありますように、アーメン。』

神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであ

り、オメガである。』』

<祈>

《パン裂き》

聖書⇒リントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒148 番 (旧 94 番曲)

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒出エジプト記 33 章 7~11 節 (YM 兄)

『モーセは一つの天幕を取って、宿営の外の、宿営から遠く離れた所に張り、それを臨在の幕屋と名付けた。主に伺いを立てる者はだれでも、宿営の外にある臨在の幕屋に行くのであった。モーセが幕屋に出て行くときには、民は全員起立し、自分の天幕の入り口に立って、モーセが幕屋に入ってしまうまで見送った。モーセが幕屋に入ると、雲の柱が降りて来て幕屋の入り口に立ち、主はモーセと語られた。雲の柱が幕屋の入り口に立つのを見ると、民は全員起立し、おのおの自分の天幕の入り口で礼拝した。主は人がその友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。モーセは宿営に戻ったが、彼の従者である若者、ヌンの子ヨシュアは幕屋から離れなかった。』

聖書⇒出エジプト記 25 章 8 節

『わたしのための聖なる所を彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう。』

聖書⇒出エジプト記 40 章 34 節

『雲は臨在の幕屋を覆い、主の栄光が幕屋に満ちた。』

聖書⇒出エジプト記 40 章 38 節

『旅路にあるときはいつも、昼は主の雲が幕屋の上であり、夜は雲の中に火が現れて、イスラエルの家のすべての人に見えたからである。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 10 章 19~22 節

『それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 1 章 1~3 節

『初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。すなわち、命の言について。——この命は現れました。御父と共にあったが、わたしたちに現れたこの永遠の命を、わたしたちは見て、あなたがたに証しし、伝えるのです。——わたしたちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたもわたしたちとの交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8 章 15 節

『あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。』

聖書⇒マルコによる福音書 7 章 1~13 節 (NH 兄, 5 節を 2 節のあとに移行)

『ファリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、エルサレムから来て、イエスのもとに集まった。そして、イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手で食事をする者がいるのを見た。そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」——ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないとは食事せず、また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないとは食事をしない。そのほか、杯、鉢、銅の器や寝台を洗うことなど、昔から受け継いで固く守っていることがたくさんある。——イエスは言われた。「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。『この民は口先ではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。人間の戒めを教えとしておしえ、／むなしくわたしをあがめている。』あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」更に、イエスは言われた。「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の掟をないがしろにしたものである。モーセは、『父と母を敬え』と言い、『父または母をののしる者は死刑に処せられるべ

きである』とも言っている。それなのに、あなたたちは言っている。『もし、だれかが父または母に対して、「あなたに差し上げるべきものは、何でもコルバン、つまり神への供え物です」と言えば、その人はもはや父または母に対して何もしないで済むのだ』と。こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている。また、これと同じようなことをたくさん行っている。』

聖書⇒マタイによる福音書 22 章 37~39 節

『イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 15 章 3~8 節

『最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。』

礼拝讃美歌⇒23 番 (旧 153 番) (NH 兄)

『聖なる聖なる聖なるかな』

《建徳要旨》